



日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

通算 第25号 2014. 4.

博物館の展示室の1つ「図書室」を紹介します。

博物館の特色に“そまった”図書がたくさん。以外に面白い!? 博物館の図書室!

日高山脈博物館には、図書室が設けられています。2階の奥の特別展示室と併用で、ネイチャーセミナーなどの講座や普及事業、特別展などの会場にもなっています。

博物館の図書も、博物館の大切な収蔵資料の一部ですので、博物館の展示室にある資料と同様に、膨大な中から一定の基準で選書しています。

この図書室は、12年ほど前、先代の学芸員が、壁際に少しだけ図書を設置したことが始まりでした。当時から、冊数は少ないものの、博物館の特色を生かした、地質・岩石、動植物、登山関係の図書が設置してあったそうです。そのころから、登山目的で日高に来たものの、天候の悪化などにより、日高に停滞することになった方々が、博物館の図書室に連日通い、日がな一日、図書資料を閲覧していったということがあったそうです。まさに、博物館の来館者のニーズに即した図書室といえるでしょう。

現在、図書室には、雑誌も含め1,000冊前後の図書が開架されています。地質・岩石、動植物、登山関係の専門～一般的な図書のほか、写真集や図鑑など、ビジュアルとして楽しめる資料もありますので、調査や学習などのほか、ちょっとした読書などにもぜひご活用ください。また、図書室には開架していない資料もありますので、問い合わせいただければ閲覧可能です。

なお、博物館の図書室に開架してある図書の貸出は、上記の理由や資料保管等の観点から一切行っておりませんのでご了承ください。



図書室の雑誌架上段の図書は、最新蔵書図書です。また、登山や調査研究用途に、日高周辺の地形図も収蔵しています。



図鑑などの大型の図書も収蔵しています。図や写真もきれいで、博物館の主テーマの地質や岩石の分野を、ビジュアルからも楽しんでいただきたいです。

日高山脈博物館のホームページ上でも掲載しています。こちらでは、写真などがカラーとなっています。ぜひご利用下さい。…⇒ ホームページ (<http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>) の新着情報からどうぞ。

大規模災害に伴う消防団員の安全対策等の強化及び訓練実施結果について

総務省消防庁から消防団員の退避ルールの確立等、消防団員の安全対策等の強化を推進する一環として、平成24年度補正予算により地域の総合防災力の強化を目的として消防団に車両及び資機材が整備(市町村に対する無償貸付)されました。

1 無償貸付車両等資機材一覧

	品目	数量
車 両	小型ポンプ積載軽自動車両	1
車両積載 資 機 材	エンジンカッター	1
	チェーンソー	1
	電動削岩機(発電機付)	1
	発電機付投光器	1
消防団拠点 資 機 材 等	資機材保管備蓄倉庫	1
	発電機付投光器	3
	簡易ベッド(寝袋含む)	15
	船外機(15馬力)	2
	簡易無線機(デジタル)	45



この車両は、大規模災害に伴う消防団員の安全対策強化としてだけでなく、軽自動車に小型動力ポンプを積載したことで大型の消防車両が進入困難となる狭い道や池、川などを活用しての消火活動が可能になるなど、特徴を最大限に活かした消防活動が期待されています。

2 無償貸付消防団車両等を活用した訓練

日高町の地域特性を踏まえ、実践的な訓練の推進を図るため、ブラインド型訓練(訓練想定等の一部を事前に明確にしない訓練)とし、次のとおり実施しました。

3 実施日

平成26年3月9日(日)

4 実施内容

(1) 訓練想定

平成26年3月9日(日)午前10時10分頃、北海道太平洋沖を震源とするM9の地震が発生し、日高町において震度7弱の激しい揺れを観測した。

この地震により、市街地では建物の倒壊や火災、道路や電気等のライフラインが寸断するなどの被害が発生し、沿岸部には大きな津波が押し寄せてくる可能性があり、甚大な人的被害及び家屋等の流出等の被害が予想される模様である。

(2) 図上シミュレーション、部隊運用訓練

地震発生から津波到達時間までの活動可能時間で地域住民の避難誘導広報を実施し、分団指揮本部の運営、大津波警報が解除された後の消防活動など、図上訓練と実動訓練を連動させた訓練を実施した。



《今後の課題等》

○東日本大震災での教訓を無駄にしないためにも「団員の安全確保を最優先に考えた消防活動」に対して町広報誌や防災訓練などをおして、地域住民の理解が得られるように消防としても努力する必要があると考えています。

5 おわりに

北海道太平洋沖で津波を伴う地震が発生した場合において、日高町に津波の第1波が到達する予想時間は約40分と想定されており、発災時には津波到達時間の15分前には安全な高台に避難完了するための退避行動を開始しますので、避難誘導広報活動や消火活動、救急救助活動が満足に実施できない事態が懸念されており、消防としても日高町と協力して自主防災組織の発足育成が喫緊の課題として取り組んでいますので、地域住民の皆様には自助・共助に対するご理解とご協力をお願い致します。